

特集 新しい中等教育を目指して 中等教育学校の誘致と 公立高等学校の再編



ゆとりある安定した学校生活の実現や個性の伸長、優れた才能の発見などの効果などが期待され、新しい中等教育のあり方として注目されている中高一貫教育。今月号の特集では、市が誘致を進める中高一貫教育校（中等教育学校）についての北海道教育委員会の設置方針や生徒数の減少による公立高等学校の再編などについてお知らせします。

登別に、 中高一貫教育校を開校

北海道教育委員会方針

今、学校教育では、『ゆとり』の中で『生きる力』をはぐくむことを目指し、個性尊重という基本的な考えに立って、一人ひとりの能力や適性に応じた教育を一層充実させることが求められています。

こうしたニーズに応えるものとして導入されたのが、中高一貫教育（3ページの『中高一貫教育とは』参照）です。

北海道教育委員会は、中高一貫教育を行う『中等教育学校』を平成19年4月に、登別市に新設する方針を明らかにしました。

今年6月の定例道議会に、校舎の設計費約1億円が補正予算案に計上され、校舎は来年度から3年間かけて建設される予定です。

中高一貫教育の導入方針は、平成12年6月に北海道教育委員会が発表した『公立高等学校配置の基本指針と見通し』で示され、この中で、中等教育学校については、

・第三次北海道教育長期総合計画の後期実施計画期間内（平成19年度まで）に連携型の実践を踏まえ、高校の再編などを行う中でモデルとなる学校を設置できるよう検討する。

・教育内容や入学者の決定、通学区域などについては今後、具体的に検討する。

・入学者の決定方法については、受験競争の低年齢化につながらないように留意する。

としています。

今回明らかになされた方針で、全道モデルとして中等教育学校を登別市に設置することとしたのは、登別市の交通の利便性が良いことや誘致

に向けて強い要望あり、海外からの観光客が多く国際性を養うのに適地であることなどが挙げられています。登別市としても、新設される中等教育学校が、名実ともにこの地域はもとより、北海道が誇れる中等教育の実践校となるよう、立地や運営などにも協力してまいります。

道立中等教育学校の概要を見てみましょう

道立中等教育学校について、現時点で明らかになっている内容をお知らせします。

設置場所：北海道登別高等学校（片倉町5丁目18番地）の敷地内
施設の規模：12学級（各学年2学級）

選抜方法：面接や実技、作文、推薦、抽選などの方法について、今後、具体的な検討を進める。

募集範囲：原則として、公共の交通機関を利用して通学できる胆振管内を中心とする範囲から募集。

また、一定程度の範囲内で自宅から通学できない生徒の受け入れも予定し、新たな通学区域を定める教育内容

・探求的・問題解決的な学習や国際理解教育と情報教育を重点に、計画的・継続的な教育を行う。

・英語を中心とした外国語教育を重視した教育課程を編成し、実践的コミュニケーション能力の育成や

（4ページに続く）